

＝慶応大「コ・モビリティ」＝

7月から実証実験



電気自動車など搬入

細倉メイン
プラザに 10月まで研究者ら延べ260人

栗原

【栗原支局】慶応義塾大学が進めている電気自動車を利用した新しい地上移動システム「コ・モビリティ」の研究で、実証実験地になっている栗原市橋沢の細倉メインプラザに11日、実験機材が搬入された。同大学から運ばれてきた1人乗り電気自動車などがトラックから降ろされ、7月から始まる実証実験に備えた。

「コ・モビリティ」とは、コミュニティ・モビリティなどの言葉からくる同大学の造語。研究は情報技術と電気自動車を組み合わ

せ、だれもが自由に安全に交流できる移動手段を開発し、新しいコミュニティ社会の構築を目指す。

橋沢地区にある遊休施設のゴーカート場で行う実験を行うことになっており、大学が夏休みに入る7月中旬ごろから本格的な実験がスタートする。

今年10月ごろまで行われる予定で、期間中、研究者が入れ替わり訪れ、最大10人が1週間滞在。延べ人数は当初見込みの100人を大

きく上回る260人がやってくる。

栗原市では、研究者や学生の宿泊場所を確保したり、市民モニターを委嘱するなど研究を全面的に支援。公開実験などに備えて応援体制も整えていく。

この日、搬入された機材は既存の1人乗り電気自動車にGPS（全球測位システム）やレーザーレーダーなどを搭載した実験車両8台と通信機器で、自動運転や遠隔制御を研究する環境情報学部の大前学准教授と学生6人が訪れ、施設内に収納した。

大前准教授は「秋までには街を想定した予備実験にこぎつけた。開かれた実験として地域の人たちにも参加してもらえば」と話している。